ホンダ車DTCチェックアプリケーション
Version 1.0

取扱説明書

ご利用の前に

・この取扱説明書をよくお読みになり正しくご使用ください。
・この取扱説明書は、製品と一緒に大切に保管してください。

警告

(1)　故障診断機本体から煙が出る、異臭がするなどの異常がある場合は、ただちに車両のイグニッションスイッチと診断機本体の電源をOFFにして、ダイアグケーブルを抜いてください。
※　火災の原因となります。

注意

(1)　本アプリケーションは故障診断機専用です。販売元が認定する診断機以外の他メーカーの診断機には使用できません。
※　診断機本体、アプリケーションソフトの故障の原因となります。

(2)　本アプリケーションはホンダ車専用です。他メーカーの車両には使用できません。
※　他メーカーの車両に使用すると、車両に悪影響をおよぼす恐れがあります。

(3)　車を修理する場合は、カーメーカー発行の整備マニュアルに基づき修理を行なってください。

(4)　販売元で認定している故障診断機用アプリケーションソフト以外のソフトやデータ類を、付属のCFカードにインストールしないでください。
※診断機本体の誤作動や故障の原因となります。

(5)　診断機本体にCFカードを取り付ける時や取り外す時は、実行中のアプリケーションソフトを停止させ、電源をOFFにしてください。
※　アプリケーションソフト実行中や電源ONの状態でCFカードの取り付けや取り外しをすると、故障診断機本体やCFカード内のプログラムやデータを破壊する恐れがあります。

(6)　診断機本体に拡張計測ボードを取り付ける時や取り外す時は、実行中のアプリケーションソフトを停止させ、電源をOFFにしてください。
※　アプリケーションソフト実行中や電源ONの状態で拡張計測ボードの取り付けや取り外しをすると、故障診断機本体やCFカード内のプログラムやデータを破壊する恐れがあります。

(7)　CFカードを抜いた状態で故障診断機を長時間、放置しないでください。
※　CFスロット(挿入口)を開放したままにすると、本体内部にホコリや水滴が入り、故障となる原因を誘引します。

(8)　CFカードを水に濡らしたり、曲げたり、落としたり、衝撃を与えないでください。
※　故障の原因となります。

(9)　CFカードを挿入する時は、診断機に向きを合わせ挿入してください。
※　向きを間違えると故障の原因となります。

(10)　CFカードを分解、改造しないでください。
※　故障の原因となります。

(11)　CFカードのコネクタ部分または内部に異物を入れないでください。
※　故障の原因となります。

(12)　CFカードを直射日光のあたる場所、温度の高い場所、湿度の高い場所、ほこりの多い場所に放置しないでください。
※　故障の原因となります。

(13)　CFカードのコネクタ端子に指で直接触れないでください。
※　故障または接触不良の原因となります。

(14)　ケーブルの抜き差しは、コネクタハウジングをつかんで行ってください。
※　ケーブルを直接引っ張ると断線の原因となります。

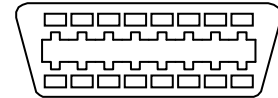
目　次

1. サポート範囲

1.1. 対象車種

(1)診断可能条件

本アプリケーションは、下記に示すすべての条件を満たすホンダ車のコントロールユニットで故障診断を行なうことができます。

- 国際標準規格の診断コネクタ(SAE J1962のコネクタ)を装備した車両。
- 本アプリケーションが診断対象としているシステムで、かつK-LINE（7番端子）またはCAN(6および14番端子)で故障診断通信を行うコントロールユニット。
- 日本国内で生産された12Vバッテリのガソリン車。

[国際標準規格診断コネクタ]

1.2. 診断項目

本アプリケーションは、「1.1.対象車種」に記載の条件を満たすコントロールユニットに対して、下記の診断機能をサポートしています。

- 全システムのダイアグコードの点検/クリア
- 個別システムのダイアグコードの点検/クリア

1.3. 対象システム

本アプリケーションは下記のシステムをサポートしています。

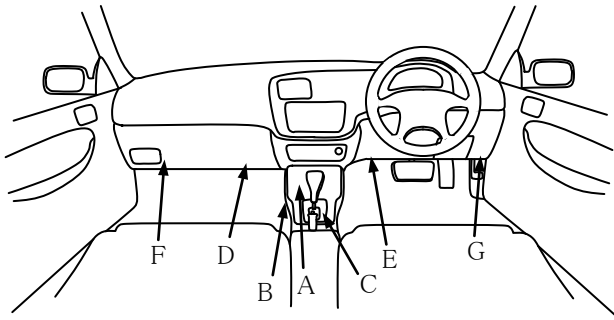
エンジン	センター　パネル	ライト　パワー　スライド　ドア
AT／CVT	ドライバMPCSユニット	パーキング　センサ
ABS／VSA	マルチインフォメーションディスプレイ	パワー　テールゲート
エアバッグ	オートACサブディスプレイユニット	パワー　トランク　リッド
電動パワステ	フロント　ワイパ	パワーウィンド
ハイドロブースタ	シートヒーターコントロール	リヤ　カメラ　CTM
IMA	リヤ　シート　ヒータ　ECU	リレー　モジュール
ボディ	ハンドフリー　テレフォン	リヤ　ジャンクション
コンビネーション　メータ	ホンダ　インフォ　プラットフォーム	レイン　ライト　センサ
オートエアコン	ハイビーム　サポート　システム	レイン　センサ
アクティブ　コーナリング	イモビライザ	キーレストランスミッタ

2.　準備

2.1.　接続

(1) 診断車両が対象車種(「1.1.対象車種」参照)であることを確認してください。

注意	対象車種以外の車両に使用すると、車両に悪影響をおよぼす恐れがあります。

(2) 診断機の電源がOFFであることを確認し、CFカードを挿入してください。
(3) 診断機にダイアグケーブルを接続してください。
(4) 車両のイグニッションスイッチがOFFであることを確認し、下図A～Gまたは整備マニュアルを参考にして車両側診断コネクタにダイアグケーブルを接続してください。

(5) 車両のイグニッションスイッチをONにします。

2.2.　各種設定

故障診断を実行する前に「ダイアグモニタメニュー」より「ダイアグモニタの設定」を実行して、以下の項目を設定してください。設定方法等に関しては、診断機本体の取扱説明書をご参照ください。

項目	設定内容
日付・時刻の設定	日付時刻が違っていたら正しく設定しなおしてください。
キープッシュ音	キーを押した時のプッシュ音を設定してください。

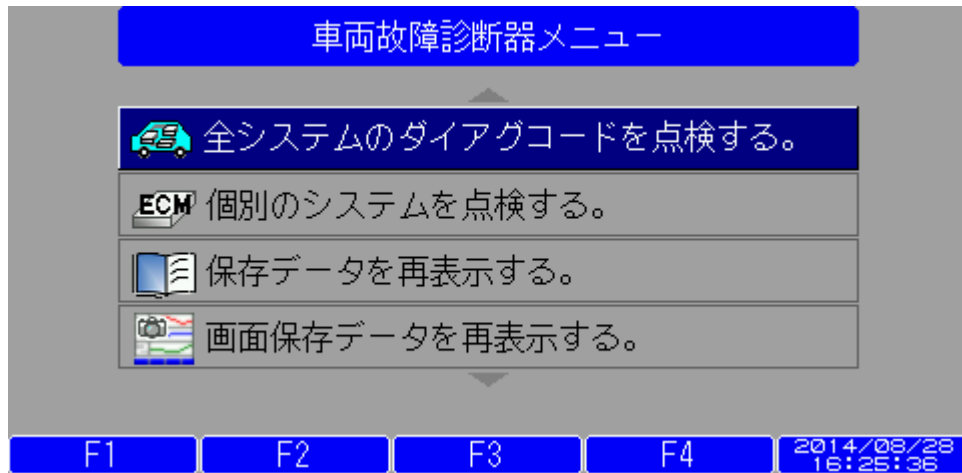
3.　操作

3.1.　車両故障診断/点検メニュー

「ダイアグモニタメニュー」で「車両故障診断/点検をする」をYESで選択すると、車両故障診断メニューを表示します。

このメニューで「ホンダ車のDTCチェック」をYESで選択してください。

「ホンダ車のDTCチェック」を選択すると「アプリケーションロード中... しばらくお待ちください」と表示されます。CFカード内のアプリケーションを実行する準備を行なっていますので、電源を切らずに数秒間お待ちください。

3.2.　車両故障診断メニュー

メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

メニュー項目	参照項
全システムのダイアグコードを点検する	「3.3全システムのダイアグコード点検」
個別のシステムを点検する	「3.4システム選択メニュー」
保存データを再表示する	「3.7.保存データの表示」
画面保存データを再表示する	「3.8.画面保存データの表示」

3.3.　全システムのダイアグコード点検

本アプリケーションが対応する全システムと車両通信を行い、各システムが記憶している現在のダイアグコード（故障コード）を取得して一覧表示します。

全システムのダイアグコード表示

システム	検出コード
エンジン	DTC無し
AT／CVT	DTC無し
ABS／VSA	DTC無し
エアバッグ	DTC無し
電動ﾊﾟﾜｽﾃ	07-01　モータ電圧検出回路診断
ハイドロブースタ	11-01　モータ ロック、過電流
ボディ	DTC無し
ｲﾓﾋﾞﾗｲｻﾞ	DTC無し
ｷｰﾚｽﾄﾗﾝｽﾐｯﾀ	DTC無し
ﾊﾟﾜｰｺﾝﾄﾛｰﾙﾕﾆｯﾄ	DTC無し

F1　F2　F3　F4 画面保存　2014/08/28 15:10:35

取得したダイアグコードは、検出したシステム名を「システム」欄に表示し、コードと補足説明を「検出コード」の欄に表示します。 ダイアグコードが発生していない場合は「DTC無し」と表示されます。 また、車両に搭載されていない等の理由で車両通信に失敗したシステムは「通信不能」と表示されます。

<操作方法>

キー	操作
↑/↓	カーソルの移動を行ないます。 すべてのコードが1画面で表示しきれない場合、画面がスクロールします。
C	前の画面に戻ります。
F4	画面のハードコピーを保存します。

※　取得されたダイアグコードによっては補足説明がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

3.4.　システム選択メニュー

故障診断を行なうシステムをYESで選択してください。
ボディを選択すると接続中の車両がサポートしているボディシステムを検索し、下記のボディ選択メニューを表示します。

システムを選択すると、故障診断を実行するための準備として車両のシステムと初期化通信を行ないます。
選択したシステムと初期化通信に成功した場合、「3.5.システム診断メニュー」を表示します。

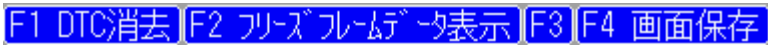
初期化通信でエラーが発生した場合、エラー画面を表示します。この場合、以下の原因が考えられますので確認してください。

① 故障診断コネクタの接触不良およびケーブル断線の確認。
② ダイアグケーブルとの接続の確認。
③ 対象車種の確認。

3.5.　システム診断メニュー

「3.4.システム選択メニュー」で選択したシステムで診断が可能な機能を表示します。

メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

メニュー項目	参照項
ダイアグコードの点検	「3.6.ダイアグコードの点検」
保存データを再表示する	「3.7.保存データの表示」

3.6. ダイアグコードの点検

3.6.1. ダイアグコードの点検

車両が記憶しているダイアグコード（故障コード）を取得し表示します。
ダイアグコードが発生していない場合、「DTC無し」を表示します。

<操作方法>

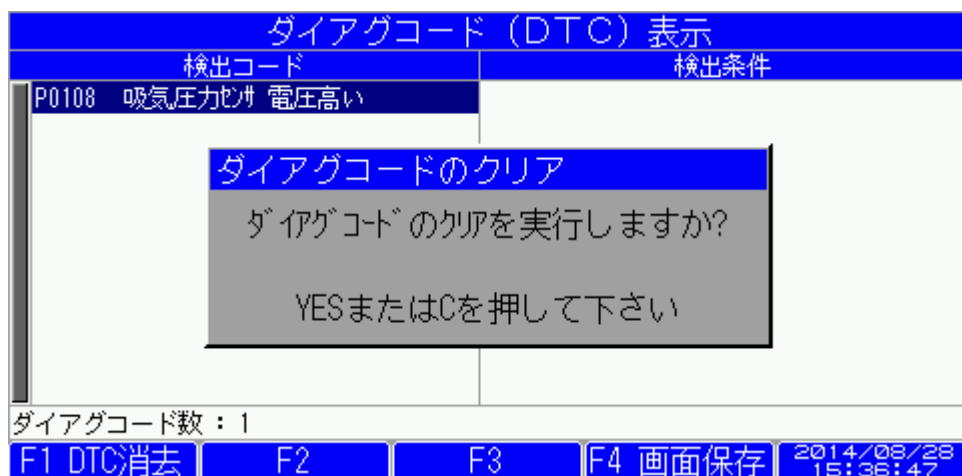
↑/↓	すべてのコードが1画面で表示しきれない場合、画面のスクロールをします。
YES/C	前の画面に戻ります。
S	ファンクションキーの機能を示す表示が切り替わります。 F1 DTC消去 | F2 ﾌﾘｰｽﾞﾌﾚｰﾑﾃﾞｰﾀ表示 | F3 | F4 画面保存 ⇕ F1 保存 | F2 | F3 | F4
F1～F4	次項の「ファンクションキー」をご参照ください。

<ファンクションキー>

DTC消去	「3.6.2.ダイアグコードのクリア」
画面保存	画面のハードコピーを保存します。
保存	「3.6.3.データ保存」

※ 取得されたダイアグコードによっては補足説明や検出条件がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

3.6.2. ダイアグコードのクリア

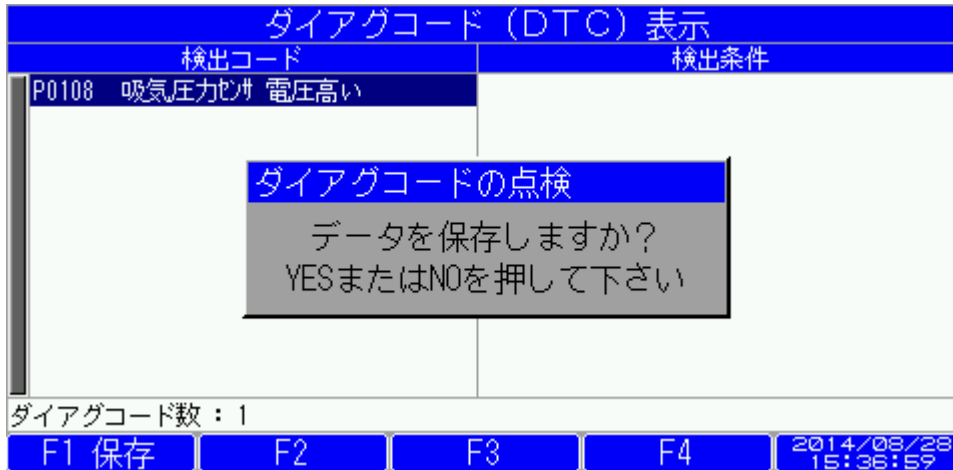
車両に記憶されているダイアグコード、フリーズフレームデータ、OBDステータスをクリアします。

<操作方法>

YES	ダイアグコードのクリアを実行します。
C	処理を中止し「3.6.1.ダイアグコードの点検」に戻ります。

※ エンジンがかかっている状態でダイアグコードのクリアを実行すると通信エラーが発生し、クリアできない場合があります。その場合はエンジンを停止（イグニッションスイッチはON状態）してから、再度ダイアグコードのクリアを実行してください。

3.6.3. データ保存

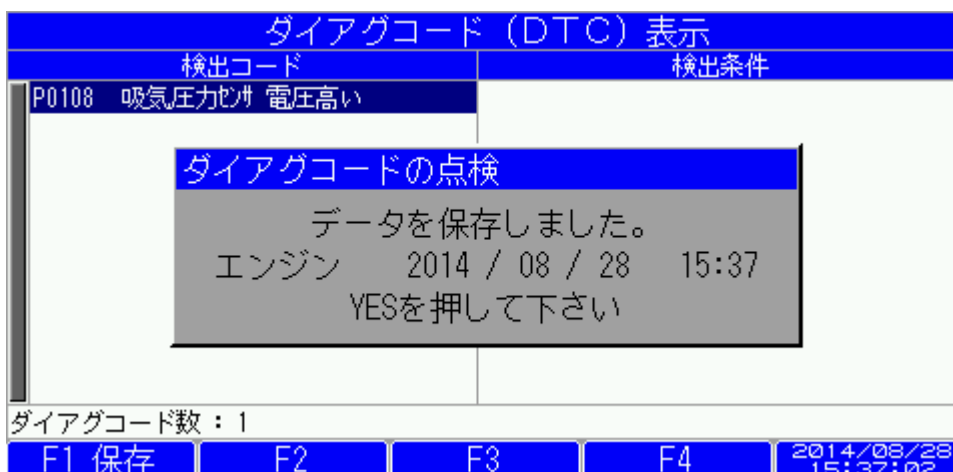
CFカードのデータ保存エリアに保存することができます。保存されたデータはいつでも参照することができます。

データ保存確認画面
[DTC]

<操作方法>

YES	データ保存を実行します。
NO	データ保存を中止し、実行前の画面に戻ります。

上記画面でYESを押すとデータ保存が実行されます。
※ 保存中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。

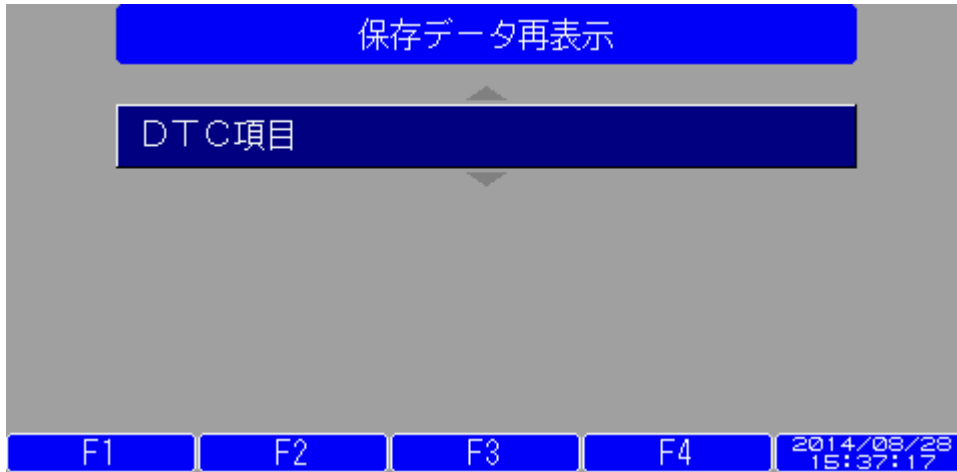
また、データ保存が完了すると下記の確認メッセージが表示されます。

データ保存完了画面
[DTC]

<操作方法>

YES	「データ保存」を実行した画面に戻ります。

3.7. 保存データの表示

「ダイアグコードの点検」によって保存されたデータを再度表示する場合に実行します。

3.7.1. カテゴリー選択

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
YES	カーソル上のカテゴリー項目に絞込み、「保存データの表示」を表示します。
C	「3.5.システム診断メニュー」に戻ります。

3.7.2. 保存データの表示

選択したカテゴリー項目の保存データを表示します。
保存データがない場合、「保存データがありません」を表示します。
※日付の新しい保存データから順に上から表示されます。

［DTC項目］

DTC項目

No	システム	ファイル作成日時	区分
1	エンジン	2014/08/28 15:37:00	
2	ハイドロブースタ	2014/08/28 14:47:39	
3	電動パワステ	2014/08/28 12:02:17	

F1 データ解析 | F2 削除 | F3 バックアップ | F4 リストア | 2014/08/28 15:37:22

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。	
YES	DTC項目	カーソル上の保存データを読込み、「3.6.1.ダイアグコードの点検」へ移行します。 但し、保存データ表示時は「DTCクリア」「フリーズフレームデータ表示」「保存」機能が実行できません。
C	保存データの選択を中止し前の画面に戻ります。	
S	カーソル上のデータを選択/非選択状態にします。	
F1	データ解析対象選択画面を表示します。 「カーソル上のデータ」 「すべてのデータ」 「選択されたデータ」 ※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。 選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」に解析用データとして転送します。	
F2	カーソル上のデータを削除します。 ※ 削除中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。	
F3	バックアップ対象選択画面を表示します。 「カーソル上のデータ」 「すべてのデータ」 「選択されたデータ」 ※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。 選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」にバックアップします。	
F4	パソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」でリストア対象に指定したデータをリストアします。	

3.8. 画面保存データの表示

画面保存によって保存された画面のハードコピーデータを再度表示する場合に実行します。
※日付の新しい画面保存データから順に上から表示されます。

No	システム	ファイル作成日時
1	ハイドロブースタ	2014/08/28 14:47:34
2	電動パワステ	2014/08/28 12:02:06

F1	F2 削除	F3 バックアップ	F4 リストア	2014/08/28 15:09:48

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
YES	カーソル上の画面保存データを再表示します。 再表示後YESを押すと、この画面に戻ります。
C	保存データの選択を中止し前の画面に戻ります。
S	カーソル上のデータを選択/非選択状態にします。
F2	カーソル上のデータを削除します。 ※ 削除中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。
F3	バックアップ対象選択画面を表示します。 「カーソル上のデータ」 「すべてのデータ」 「選択されたデータ」 ※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。 選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」にバックアップします。
F4	パソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」でリストア対象に指定したデータをリストアします。

■お問い合わせについて

この製品について不明な点がある場合や故障と思われる場合には、故障診断機キットに同梱されています故障診断機本体取扱説明書のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

ホンダ車DTCチェックアプリケーション Version 1.0

取扱説明書

2014年9月　　初版発行